

## 第6回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議 会議録

1. 開催日時 令和8年1月28日（水） 15時00分～17時00分
2. 会 場 軽井沢町中央公民館 大講堂
3. 出席者 委員：荒井 英治郎委員、本田 秀夫委員、三和 秀平委員、  
木村 泰子委員、西郷 孝彦委員、飯澤 幸世委員、  
今村 久美委員、西野 博之委員、岡田 敏之委員、  
藤木 拓道委員、一色 保典委員、向井 健太郎委員、  
本城 慎之介委員、楠 武明氏（代理）、諸星 ひとみ委員、  
岩崎 ひとみ委員  
事務局：宮本 隆教育長、内堀 繁利アドバイザー、岩井 和成課長、  
金井 章宏課長補佐、金井 拓也係長、  
学校教育係職員 小林 真理、堀本 淳子  
軽井沢高校・教育魅力化推進係職員 根津 彩香、桐野 耕介
4. 議 題 (1) 第5回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議  
のまとめ  
(2) 『私たちの学校』づくり」ワークショップ・実践について  
（中間報告）  
(3) スクールコンセプトについて  
(4) 設置場所について  
(5) スクールデザインについて  
(6) 学校案内について  
(7) 申請書類の様式について  
(8) その他
5. 傍聴人数 16名

## 6. 議事内容

### ● 1. 開 会

#### 【岩井こども教育課長】

定刻となりましたので、ただいまより、第6回軽井沢オープンドスクール（仮称）設置準備会議を開会いたします。

軽井沢町教育委員会こども教育課長の岩井です。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

以降は、着座にて失礼いたします。

会議に先立ちまして事務局よりお願いがございます。

これまでの会議と同様に、対面及びオンラインの併用とさせていただき、原則として、（事業名にもあるとおり「オープン」＝）「公開」とさせていただきます。

また、傍聴者、メディア等の関係者もおられますが、途中での入退場を含め自由とさせていただきますのであらかじめご了承ください。

この会議は事務局において録音・撮影を行い、後日、議事録の形で町のホームページに掲載させていただきますので、重ねてご了承ください。

なお、現時点で「第5回会議」までの議事録を公開（掲載）しております。

傍聴人の方で、写真等 NG の方は事務局までご連絡ください。

## ● 2. 教育長挨拶

### 【岩井こども教育課長】

それでは、次第により進めさせていただきます。

初めに、軽井沢町教育委員会 教育長 宮本 隆より、挨拶を申し上げます。

### 【宮本教育長】

皆さんこんにちは。教育長の宮本でございます。

令和8年となり初の設置準備会議となりますので、今年もよろしくお願いいたします。

本当に委員の皆様、ご多忙の中、本日ご参加いただきましてありがとうございます。

また、オンラインでご参加の皆様もありがとうございます。

現在、全国で寒波が押し寄せております。

軽井沢は元々寒いですが、この1週間で朝の最低気温が-10℃を下回る日が4日ありまして、今日はとても暖かいです。

そういったところで会議をしているということで、よろしくお願いいたします。

昨年、5回の準備会議を経て、委員の皆様からその会議の中でいただきましたご意見をその都度、事務局として反映させていただいております。

(軽井沢オープンドアスクール(仮称)の)設置は来年4月を予定しておりますけれども、町としては設置してからも、環境整備(ハード面、そしてソフト面)を順次、そこに学ぶ子どもたちやその関係者の意見を聞きながら進めていくという予定でございます。

スクールコンセプトの中でお示ししているように、軽井沢オープンドアスクール(仮称)の設置と、既存の学校の魅力化と、この2つの事業を合わせて「『私たちの学校』づくり」というふうに呼んでいますので、オープンドアスクール設置以降も、「私たちの学校」を関係者の皆さんと作り上げていきたいというふうに考えております。

さて、本日は第6回目ということで、3月5日の第7回を1つの区切りといたしますので、それに向けて、学校案内を、案の段階ですけれどもお示ししておりますので、様々な側面からご意見をいただけますとありがたいです。

よろしくお願いいたします。

### 【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

### ● 3. 座長挨拶

【岩井こども教育課長】

続きまして、荒井座長より挨拶をお願いいたします。

【荒井座長】

皆さんこんにちは。

座長を拝命しております、信州大学の荒井でございます。

去年は、大変お世話になりました。

こちらの会議も今年度は残すところあと2回となっています。実務的には今年度末に文部科学省へ申請書各種を提出する予定です。本日も内容を確認いただき、ご意見ください。

私事ですが、この間、全国の他の学びの多様な学校づくりや、夜間中学関連の動きに関わる中で、相当程度規格化されている部分もあれば、設置主体によって個性が出てくる部分もあります。この意味で、教育委員会は、住民の皆さんとコミュニケーションを取りながら学校づくりの輪郭を形作っていくことが極めて重要だと思っています。

では、今日もよろしくをお願いいたします。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

本日の会議ですが、福本委員、上原委員、久保委員から欠席のご連絡をいただいております。なお、本田委員、今村委員、西野委員におかれましては、オンラインでのご参加となります。よろしくをお願いいたします。

本田委員におかれましては、初めてご参加をいただいておりますので、自己紹介を兼ねて一言お願いしたいと存じます。

よろしくをお願いいたします。

【本田委員】

信州大学医学部子どもまごころ発達教室の本田と申します。

児童精神科の精神科医です。

この会議に参加すると言っておきながら、今回が初めてということで申し訳ございません。今回はオンラインですが、次回は現地での参加を予定しておりますので、よろしくをお願いいたします。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

また、山崎委員の代理といたしまして、軽井沢中学校教頭楠武明様のご出席をいただいております。

皆様どうぞよろしくをお願いいたします。

#### ● 4. 議 事

(1) 第5回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ

【岩井こども教育課長】

それでは議題に移ります。

これより先は、設置準備会議要綱第4条第2項により、荒井座長におきまして進行をお願いいたします。

【荒井座長】

まず、(1) ということで前回の設置準備会議のまとめについて事務局からご報告をお願いいたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい。事務局の金井です。

私の方から説明いたします。

資料のページ数2ページ、右上【資料1】をお願いいたします。

第5回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議まとめになります。

日時：令和7年10月30日（木）15時00分から16時40分まで

会場：軽井沢高等学校 多目的室

出席者、欠席者、事務局等については記載のとおりでございます。

会議事項：(1) 第4回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ、(2) 「私たちの学校」をつくるワークショップについて、(3) 設置場所・スクールコンセプト・スクールデザインについて、(4) 夜間中学について、(5) その他ということで会議を行いました。

主な委員の皆様からの意見・質問等については、資料に記載の通りでございます。

1枚めくっていただきまして、資料3ページをお願いいたします。

夜間中学についての現状の取り組み状況について事務局より説明をさせていただきました。

本日、第6回目の会議ということで、中央公民館での開催に至りました。

まとめについては以上になります。よろしく申し上げます。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

ただいま、配付資料の【資料1】について事務局から説明いただきましたが、いかがでしょうか。

前回ご欠席された委員の方もいらっしゃいますけれども、よろしいですか。

では、また確認したいことがありましたら、その都度ご発言いただければと思います。

● (2) 『私たちの学校』づくり」ワークショップ・実践について

【荒井座長】

続きまして、議題の(2) 軽井沢町の全ての学校が『私たちの学校』づくり』を進めていくということで様々な取り組みを進めてきております。  
その中間報告を、事務局の方から共有お願いします。

【根津軽井沢高校・教育魅力化推進係員】

はい、お願いします。

事務局の根津です。

資料4 ページ【資料2-1】を御覧ください。

今、座長からもご紹介いただきましたが、今年度、『私たちの学校』をつくるアンケート)をもとに、学校内外で『私たちの学校』づくり」ワークショップやその他の実践を行ってきました。

【資料2-1】でその一覧をまとめております。

このうち、第5回設置準備会議以降の動きを赤字で示しております。

今年度「私たちの学校」をつくるために行ってきた取り組みについては、各学校で学校づくりに向けた取り組みに生かすとともに、軽井沢オープンスクールのある方にも反映していきます。来年度、どのような手法で「私たちの学校」づくりを目指していくのかについては、今年度の取り組みを踏まえ、今後各学校と協議していきたいと考えております。

【資料2-2】以降は、中間報告ということで、これまでの会議で紹介させていただいたそれぞれの取り組みも含めて資料でお示しするとともに、ワークショップについては、出された意見の一覧もつけさせていただいております。

なお、9月22日に実施したフォーラムでのご意見は、第5回会議でも報告させていただいておりますが、資料の枚数が多くなってしまうため、今回は省略させていただいております。

ここからは時間の都合上、【資料2-1】で赤字で示している【資料2-2】、【資料2-4】、【資料2-6】、【資料2-10】、【資料2-11】について説明させていただきます。

まず、5ページをご覧ください。

【資料2-2①】となります。

東部小学校で実施したワークショップの内容です。

- 1 実施概要のうち(1) 実施日は昨年11月11日です。
- (2) 実施方法は、東部小学校では、縦割り班での交流や対話活動を大切にして取り組んでおり、今回のワークショップもその一環で実施されました。
- (3) テーマ及び(4) 進行方法、2 当日の意見、3 今後の見通しは資料をご覧ください。

私はこちらの全体進行をさせていただきましたが、ワークショップ全体として、4～6年生約70人規模であることから、学年関係なく活発に意見交換が行われ、終盤の意見共有の場面でも、多くの班が自ら発表したいという意欲を持って取り組んでいました。

次に、11 ページをお願いいたします。

【資料 2-4 ①】となります。

軽井沢西部小学校で実施したワークショップの内容です。

1 実施概要のうち（1）実施日は昨年 10 月 27 日です。

（2）実施方法は資料をご覧ください。

（3）テーマについては、第 4 回設置準備会議内で「松組・竹組」という学級名についてご意見をいただき、これまで話題にしたことがなかった学級名について、児童がどう感じているかを知りたいと校長が考え、児童への投げかけを行いました。

（4）進行方法は、これまでの西部小学校でのワークショップと同様に、児童主体のクラス会議という形で実施しました。

2 当日の意見については次ページをご覧ください。全員が「今のままの松組・竹組という学級名が良い」という意見でしたが、このように既存のあり方を問い直す機会を委員の皆様からいただいたことをありがたく思います。

次に、21 ページをお願いいたします。

【資料 2-6 ①】をご覧ください。

軽井沢中学校で実施したワークショップの内容です。

1 実施概要の（1）目的～（3）実施日をご覧ください。

軽井沢中学校では、「『私たちの学校』をつくるアンケート」の結果を、生徒主体の「カフェ」という形で昨年 12 月 24 日に実現させました。この詳細については後ほどご説明しますが、実現する過程で、どのようにしたら全校を巻き込んで準備を行い、カフェへの関心を高めることができるかをカフェの実行委員の生徒が考え、ワークショップを昨年 12 月 10 日に実施しました。

（4）実施方法及び（5）進行方法は資料をご覧ください。

また、ワークショップで全校に実施したアンケートは、次ページ【資料 2-6 ②】をご覧ください。

続けて 2 ワークショップを踏まえてをご覧ください。

ワークショップの内容が、実際のカフェの運営や内容に反映されている・考慮されているとカフェの参加者が実感できるようにすることで、ワークショップの価値が高まると考えました。そのため、アンケートの結果決まったカフェの名称については事前に全校に周知し、その他にアンケートで寄せられた意見については、全校に事前に周知することはできなかったものの、実行委員会で検討し、参加者に「自分たちの意見が反映されている・考慮されている」と伝わるよう工夫しました。

アンケートで寄せられた意見については、23 ページの【資料 2-6 ③】に集約しておりますのでご覧ください。

ワークショップ当日は、生徒がカフェの内容について真剣に考え、それぞれのペースで楽しみながら装飾品を制作する姿がありました。

次に、33 ページ【資料 2-10】をご覧ください。

中部小学校で実施した児童会祭りの内容となります。

1 実施概要の（1）経緯及び（2）テーマをご覧ください。前ページ【資料 2-9】にて

開校 70 周年記念イベントとして実施した「学校宝探し」を紹介させていただいていますが、この実践の反省を踏まえて実施されました。

テーマについては、今年の児童会目標と関連させて設定したとのことです。

(3) 実施日～(6) 進行方法については、資料をご覧ください。

続けて 2 児童会役員の感想をご覧ください。これまでの行事の反省を生かして実施したことで、役員も全校児童も楽しめる企画となり、達成感を味わえたことがうかがえます。

最後に、34 ページをご覧ください。

【資料 2-11】となります。

先ほど【資料 2-6】でもお伝えしました、軽井沢中学校で実施した「よりみちカフェ」の内容です。

1 実施概要は、資料をご覧ください。

2 12月24日(水)実施詳細をご覧ください。(1)日時ですが、下校時刻後の放課後の時間を使って実施しました。

(2)の会場、軽井沢中学校多目的室ですが、5月の第2回設置準備会議で会場として使用した場所になります。

(3)内容については、実行委員が計画した案がもとになっていますが、個々の内容については、12月10日のワークショップで実施したアンケートで全校から寄せられた意見の多くを反映することができました。

(4)参加人数及び(5)当日の様子については、資料をご覧ください。

3 感想・反省及び4 今後に向けてをご覧ください。実行委員生徒の多くはやりがいを持って準備や運営にあたることができました。また、実行委員生徒や来場者からは、カフェの継続を望む意見や、次回以降に向けた意見も多く寄せられています。

一方で、教職員の反省にもあるように、今後も継続して実施していくためには、さまざまな課題があります。課題については、実行委員の生徒たちも実感している様子でした。この企画が継続的なものとなるための大切な一歩であると感じています。

これらの課題を検討することで、よりよい交流の場とするとともに、学校に行きづらい生徒の居場所にもなりうるようにしていきたいと考えております。

年間を通して、軽井沢オープンダスクール(仮称)設置をきっかけとして、委員の皆様からご意見をいただきながら、各学校の既存のあり方を問い直したり、児童生徒の願いを実現させるための取り組みを行ってきました。児童生徒から寄せられた意見の特にどんな点を学校づくりに活かすかについては、今後も各学校で検討を行っていきます。

引き続き、軽井沢オープンダスクール(仮称)の設置と並行し、各学校と協議しながら既存校の魅力化を行うことを通して「『私たちの学校』づくり」を進めていきたいと考えております。

以上で、議題(2)「『私たちの学校』づくり」ワークショップ・実践についての説明を終わりにします。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

4 ページをご覧くださいただけたらと思います。

【資料 2 - 1】ですけれども、赤字で色を変えている部分についての説明を行っていただきました。

ここで、委員代理という形で今回は、【A 委員】に参加いただいておりますので、補足説明をお願いいたします。

#### 【A 委員】

改めまして、こんにちは。

本日は【B 委員】が他の会議のため出席できない関係で、代理で出席をさせていただきました。

今回のこのよりみちカフェについては、地域の方や P T A のお力を借りながら、子どもたちが自分たちで自分たちの居場所を考えるということで、基本的には子どもたちの意見を尊重して、それに大人がどう支援できるかというところを、教育委員会の方にもご協力いただきながら実際に実施をしました。

様々な方が当日交流をしたり、実際に子どもたちから個室というものを提案してくれました。

本来、「交流というところで個室とはいいのか」ということを教員は考えがちだと思います。

ところが、そこ（交流の場）に不登校の子たちも、自分たちが安心していられる場所ということで、この個室ということについては、今回ぜひ（作りたい）ということで、私と担当の根津の方でサポートしながら行いました。

感想の中にありますように、提案者からは「個室を提案してよかったという意見をもらい嬉しかった」という感想がありました。

実行委員会には、多様な子どもたちが入っています。

そこで子どもたちは自分の意見を言いながら、いろんな人と実際にカフェの用意をしながら、多様な大人たちが関わって実現したというものです。

ぜひより良い形を模索しながら、今後も実施していきたいと考えております。

長くなり申し訳ございません。以上です。

#### 【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

【資料 2 - 1】にある、今年度の取り組んできた様々なワークショップ・実践についてご意見、ご質問等あればと思いますがいかがでしょう。

はい。では【C 委員】お願いします。

#### 【C 委員】

とても楽しそうな企画ばかりで、読んでいて楽しかったです。

1 点質問したいんですけども、軽井沢中学校の（実践であるよりみちカフェの）反省の一部で教職員から、「実施時期については検討の余地がある。受験を控えた 3 年生にとって果たして適切だったか。」とありますが、もう少し詳しく聞きたいです。

【A委員】

時期がちょうど、推薦入試とか私立の受験が始まる中で、今回3年生の子たちが多く実行委員として関わってくれていました。

休み時間の短い時間で準備を進めていった関係で、もしかすると受験勉強したいのになかなかできなかったというようなところで、職員であるとか、ご家族の方から、もう少し受験の方に力を入れたかったという意味合いが込められているかなというふうに思います。

【C委員】

つまり、受験勉強をしたいという意見が子どもからあったということですか。

こんなイベントよりも、こういう時間よりも受験勉強したいんだという子どもからの意見があったということですか。

【A委員】

どちらかという、子どもたちはこの活動にのめり込んでいる子たちが多かったので、実行委員の子たちからはその意見を、私は感じなかったです。

しかし、それを見ている先生や保護者の方から、ちょっと心配だというご意見をいただきました。

【C委員】

【A委員】はどう思います。

【A委員】

この12月24日というのがクリスマスイブなので、特別な意味合いを持っていると子どもたちは考え、自分たちの力でクリスマスプレゼントとして実行するという事に意義があると私は思い、この日に設定をいたしました。

私は、良い時期だったのではないかとこのように思っております。

【C委員】

なるほど。安心しました。

【荒井座長】

はい。ありがとうございます。

別の観点からでも構いませんけれどもいかがでしょうか。

よろしいですか。

こちらは、委員の皆様方からオープンドスクールだけでなく、公教育全体に対するインパクトを与えるべく同時並行的に進めていく必要があるというご発言やご意見から端を発したものです。

新しいチャレンジですので、当然課題も出てくるかと思いますが、出た課題に対して、引き続き子どもたちとともに対話しながら進めていただきたいと思います。

ありがとうございます。

それでは(2)はここまでとさせていただきます。

● (3) スクールコンセプトについて

【荒井座長】

議題の(3) スクールコンセプトについて、【資料3】について事務局の方から説明お願いいたします。

【宮本教育長】

はい。それではスクールコンセプトに関わって、36 ページ【資料3-1】をご覧ください。コンセプトに関して、今までも様々なご意見をいただいておりますけれども、前回の会議でいただいたところは赤字で書いてありますので、そちらをご覧くださいだけだと思います。

まず、36 ページの下から3段目です。

連携型の中高一貫ということで、実際には将来的な話なんですけど、そうなった際に何か特別なコースを設けるのかという質問に対して、特に必要ないと考えています。

本校型にできないのかということに関しては、「私たちの学校」づくりということで、既存校の魅力化をしているので、そういう目的を踏まえ分校型がいいのではないかと町は考えています。

1番下は、高校入試の壁があるけれども、連携型の中高一貫の場合はどうなのかという話で、調査書とか学力検査等の入試ではなくてもいいという話をさせていただいています。

37 ページの真ん中あたりにありますが、県外も含めて生徒募集をしてはどうかという意見に対し、夜間中学に関しては近隣市町の広域化も考えていますとお答えしております。

下のところにある、発達特性のある子どものためにもプレイパークが必要ではないかという意見に対しては、学びの場というものをそれぞれが考えて、生徒自身が作り上げていくので、町の施設や環境を活用していくネイチャータイムを考えています。

38 ページのところでは、上から4つ目のところに、給食に関してのご質問がありますが、給食はないが困る生徒がないように検討したいということです。

その下は、軽井沢高校の先生方とも関わりも必要なんじゃないかということで、考えていきたいと思っております。

そして、今年、令和8年1月に開校した「横浜きりん学園」も参考にしたほうがいいのではないかとということで、検討していきたいと思っております。

民間施設との連携を考えていったほうがいいのではないかと意見がありましたが、もちろんいろいろなところとの連携や教育支援センターとの連携も図ります。

また、高校のチャイムというような問題があるのではないかなということで、もちろん高校側とも相談しながら検討していきますということです。

40 ページを見ていただければ、ここには2つ新たにいただいた意見があります。

オープンドアスクールの売りとか、そういったイメージがなかなか湧きにくいのではないかと  
いうことで、今後も様々な形でイメージを周知していきます。

最後のところでは、発達に特性がある方については、場合によって、教室から飛び出してしま  
う懸念があるのではないかとということですが、元々オープンドアスクールの子どもたち  
が自分のペースで居るものですので、一応そういった飛び出しみたいなものについては想定  
していません。

そして41 ページをご覧ください。

ここでは前回のご意見を2つ書いてあります。

軽井沢高校の屋外にスケートリンクやベンチなどがあるが、こういったものをうまく使って  
いけばいいのではないかとということ、今後中学生、高校生双方の意見を聞きながらやって  
いきたい。

要は、今後運営していく中でいろんなことを考えていきたいと思えます。

最後のところは夜間中学の修業年限について、他の学校はこのようにしているがオープンド  
アスクールのどうかということ、これについては44 ページに示していますので、後で  
ご説明していきたいと思えます。

42 ページのスクールコンセプトですけれども、これは第1回会議からご提示しているもの  
でして、その中で2 対象生徒のところを、先ほど申し上げましたように、軽井沢町だけでな  
く近隣市町とも連携しながら考えていますと変更しております。

その下の設置場所に関しては、次の議題にありますので説明を割愛させていただきます。

そんな形でスクールコンセプトに関してご意見いただいた部分と、それに対しての事務局の  
対応を書かせていただいております。

以上でございます。

#### 【荒井座長】

はい。ありがとうございます。

ただいま【資料3-1】【資料3-2】を使って、皆さんからいただいたご意見に対する事  
務局の回答を説明いただきました。

欠席された委員の方も含めて、内容のご確認をいただきたいと思っております。

例えば、42 ページのところにありますけれども、2つのコースを設けること、そして夜間  
中学の部分に関しては、軽井沢町以外の部分も想定していきたいという点はポイントではない  
かなと思います。

この後、設置場所とか諸々の議論がありますけれども、さしあたりこのスクールコンセプト  
についてのご意見はいかがでしょう。

#### 【D委員】

ありがとうございます。

かなり具体的になっていて、魅力ある学校ができつつあるなど感じています。

質問なんですけれども、3点質問させてください。

まず、夜間中学の方ですね。

軽井沢町だけでなく、近隣市町在住者も想定するということですが、これは夜間中学の対象者に限る話でしょうか。

それと、協定を交わされると思うのですが、その中で就学援助の件はどうかということをお聞きしたいです。

市町村によって、就学援助制度が異なっている場合がありますので、そのあたりはどのようにされるのかをお伺いできればと思います。

あと1点は、この前も言ったと思うのですが、夜間中学は特にニーズの掘り起こしが難しいところがあります。

だから、夜間中学のニーズをどういうふうにこれから掘り起こしていくかという計画も含めてご説明いただければありがたいです。

#### 【荒井座長】

はい、合計3点ご質問をいただきました。

1点目は、先ほど私も少し発言をいたしましたけれども、近隣の市町村在住者を対象とするというのは、夜間中学コースだけなのか、学びの多様化学校コースについてはどうなのだろうかという質問でした。

2つ目は、今、夜間中学界限で大きな課題になっている案件かと思いますが、いわゆる生活保護世帯等々も含めて就学援助制度に対して他市町村から来た場合には、仕組みや算定基準が違いますので、そのあたりのケアを就学機会の保障という観点からどうすべきかという質問です。

最後は、夜間中学のニーズの掘り起こしということで、こちらはまた後ほど出てくる部分かなと思いますので、後でも構いませんが、ご説明いただければと思います。お願いいたします。

#### 【宮本教育長】

まず広域の部分のところですが、現時点では夜間中学コースの、学齢期を過ぎた方を想定しています。

基本的には、通うという部分のところ等での判断です。

中学生はどうかという側面もありますけれども、学齢期の子どもたちに関しては、学びの多様化ということで、まずは町の学校ということで始めていきたいと考えています。

将来的にどうなるかはまだ決まっていますが、最初は夜間中学を広域化として考えていきたいと思っております。

2点目の各市町村のところのお話は、まだまだこれから詰めていきますので、制度的な違いみたいなのがあった場合にどうしていくのかというところは、まだ具体的にどうするか議論されていないのが現状であります。

今後の課題と考えております。

それとニーズの掘り起こしですけれども、今、町の中でやっています。

同じように近隣市町にもお願いするというわけにはなかなかいかないんですけれども、(軽井沢)町の中ではこういうふうにはやっていますということをお伝えしながら、各市町村の対応を見ていきたいと考えています。

実際には、協定を結ぶか結ばないかということについて、相手がいることですので、そういったところも今後詰めていきたいと考えております。

以上です。

**【荒井座長】**

はい、ありがとうございます。

**【D委員】**

まず、学びの多様化学校コースの募集について、他の市町村からの募集はどうかということを含めて今後考えていくということだったんですけども、不登校で学校に行けない子どもたちが近隣の市町村にもいるということでしたから、やはりそれも含めて考えていただければありがたいと思います。

それから、夜間中学における就学援助制度については、軽井沢町からのアプローチも必要ですが、できれば長野県教育委員会もイニシアチブを持っていただいて、調整という形で関わっていただければよりスムーズにいきやすいではないかなと思います。

その辺もまた、お願いしたいと思います。

**【荒井座長】**

はい、ありがとうございました。

ご意見ということで、個々の検討課題をいくつか上げていただいたんではないかなというふうに思っております。

ぜひ今日は県の課長もいらっしゃいますので、申し送りとして、今後の関わりについての1案として受け止めていただきたいと思います。

ちなみに、座長としてお伺いしたいんですが、多くの方が県外から来られていますので、近隣市町村について、町や村といわれても分からない部分はあるかと思いますが、現状こういったところが事務局にとっての近隣のイメージなのかということをお聞かせいただけたらと思っています。

というのも、現状長野県でこの動き（夜間中学の設置に関する動き）があるのは、軽井沢町と上田市ということの中で、ぜひ松本から行きたい、長野から行きたい、飯田から行きたいという思いがある場合に、近隣ではないのでという形なのか、要相談という余地を残しておいていただけるのか。

その辺は、現状ではいかがでしょう。

#### 【宮本教育長】

現状では、まだ具体的に何か交渉を始めているという段階ではなく、ちょっとお話をしているという段階なんです。

そのお話している近隣と申しますのは、軽井沢町というのは（長野県の）東の外れで、東側は群馬県なのでそちらは入らない想定です。

西側の方は、お隣の御代田町、隣接している佐久市、それと接してはいませんが、基本的に浅間山麓というところで小諸市、あとはお話ししてもわからない部分があると思うんですけど北佐久という昔の1つの集まりがありますので、北佐久郡の立科町、このあたりまでを1つのまとまりとして想定しております。

#### 【荒井座長】

はい。

ご提供いただきありがとうございます。

またぜひ皆さん調べていただいて、町のイメージを持っていただけたらと思います。

#### 【E委員】

単純な質問なんですけど、近隣の市町村はちょっと置いておいて、軽井沢町の全ての子どもを想定したときに、オープンドアスクールに行くことができない子ども、この条件を教えてください。

#### 【宮本教育長】

行けないというのは、何を意味するのでしょうか。

#### 【E委員】

私の質問がわかりにくくてすみません。

不登校というのは、30日欠席というもので子どもがレッテルを貼られるわけです。

毎日通っているけどすごくしんどくて、こんな学校ができるのであれば自分も行きたいと、そんなふうに思う子がどんどんこっち（オープンドアスクール）に行く可能性も、今の全国の子どもが置かれているこの環境を考えたら、あり得ると思うんです。

前々回の会議のときに、全ての子どもが対象で希望すればこのオープンドアスクールに行けるのかと質問させていただいたときに、それはできないと回答いただきました。不登校の子どもだけが行くための学校だと。

確かにそうかなと思う部分もあります。

もちろん、将来的にすべての学校が学びの多様化学校のようなになったら、不登校みたいな言葉はないわけですから、そこを大きな目的としているというところは、ここにいる皆さん全員

が同意されていると思います。

しかし具体的に軽井沢町の子どもたちでこのオープンドアスクールに行くことができる子どもは、全ての子どもたちではなく、一部の子どもたちということですね。

ということは、行くことができない、オープンドアスクールに希望できない子どもたちがいると思います。

その条件を明確に言語化していただけたらありがたいなと思います。

#### 【荒井座長】

事務局、いかがでしょうか。

#### 【宮本教育長】

しんどい子どももちろんいるとは思いますが、学びの多様化学校のもともとの発想は、不登校、不登校傾向にある子どもにあります。

したがって、この学校も、57 ページにある「こんな方の入学をお待ちしております」というところで出す条件を設けています。

そうは言ってもそれだけではなく、コンセプトの中でも示していますが、そういうしんどい子どもがいなくなるように、先ほど【A委員】も申し上げましたとおり、「『私たちの学校』づくり」の中で、そういう特定の子を対象にした学びの多様化学校と夜間中学を併設したオープンドアスクールをつくるという目的ともう1つ、既存の学校を魅力化するということの2つを大きな柱として掲げています。

既存の学校（軽井沢中学校）にそういう子がいなくなるように、知見とかやり方を持っていくという部分を、学校や、あるいは教育委員会でやっています。

既存の学校には長い歴史があり、戦後だけではなく戦前から学校教育、公教育の歴史がありますので、そういう学校文化を変えていくっていうのは一朝一夕ではできません。

でも私達はそれに着手しているということなんです。

新しく作る学校というのは比較的コンセプトがしっかりしているので、コンセプトに基づき学校運営を行い、そこに先生たちがやってきて、そしてそれが継続されると考えています。

ですから、その2本立てでいくということが非常に重要であるからこそ、委員の皆さんのご意見を聞きながら、実行しています。

時間がかかることなのでしょうがない部分もありますが、できるだけ早くそういうふうになればいいなというふうに考えております。

#### 【E委員】

2本の柱で動いているというのは良いことだと思います。

本当に、2本の柱がなかったらオープンドアスクールの目的は達成できないと思うんです。

しかし、例えば自分たちが子どもだったらと考えたときに、すでにオープンドアスクールに

行ける条件を持っている子もいますが、毎日中学校に通っていて、毎日出席しているけど、自分はこのコンセプトだったらオープンドアスクールで学びたいという子が必ず出てくると思うんです。

こういう子どもたちは対象外か、それとも対象の中にあるのか。  
どちらでしょうか。

### 【宮本教育長】

後で出てきますが、学校案内を出す段階では、やはり対象外にせざるを得ないと思っています。

ただし、そういう広報の仕方をするかどうかという問題があります。

一応今のところ、学びの多様化学校コースは軽井沢中学校の生徒を対象にしています。

ですので、そういうふうなことから、かなり狭い範囲の中での広報ができますので、細かい広報、つまり先生と面談をしたり、教育委員会が検討しながら、プラスアルファの広報もできると思います。

そういった方法で広報していくというのは、今【E委員】の話を聞きながら、できるのではないかと考えておりました。

### 【E委員】

今の中学校がどうというわけではないですが、教育長がおっしゃったような、これまでの過去を引きずった「学校の当たり前」が君臨しているところで、全ての子どもたちは色々苦しんでいるし、考えているし、悩んでいると思います。

このコンセプトの学びの多様化学校が生まれて、子どもたちは、自分の丸ごと・自分のありのままを認めてもらえるようになると思うんです。

そんな中で、学びの多様化学校に行こうという意思を持って、主体的に学びの多様化学校に行く子どもたちは、しっかり学び始めると思うんです。

自分の学びを自分が作っていけるわけですから。

この町の中で、中学校に行っている子とオープンドアスクールに行っている子は必ず顔を合わせるし、一緒にこの軽井沢町を、10年後20年後作っていく大人になっていくわけです。

オープンドアスクールがとても楽しいという話が広がるのが考えられます。

そうなった際に、大人は我慢できるからいいですが、子どもの発想とすれば、自分たちと比べ、「あの子たちはいいよね、好きなことをしていて、時間割も自由で、自分が考えた学びをやっていけるなんて」という考えになると思うんです。

既存の中学は、どうしても先生に怒られるし、友達と競争させられるし、人と比べられるということを、子どもたちは今みんな感じていると思うんです。

そうなったときに、次の心配が起こってきませんか。

私だけですかね。

結果的には、既存中学校の子とオープンドアスクールの子が本当に繋がって、この町をつく

る大人になっていくということが、とても上位の目標にあると思っています。

オープンドアスクールができてちょっと先のことを考えたときに、その上位目標を達成するのは、既存小中学校にかかっているとされたら大変ではないかと思います。

何かその辺りもちょっと考えていきませんか。

以上です。

【D委員】

今、【E委員】の話を聞いていて、そんな学校になったらいいなと思いました。

【E委員】

そんな学校にするんですよ。

【D委員】

そうならないといけないと思います。

今、教育長がおっしゃったように、不登校傾向が見られる子どもというのは学びの多様化学校の対象になると思いますが、例えば、「学びの多様化学校の設置に向けて」という手引きでは、登校することはできるけれども、在籍学級に入ることができずに別室登校等をしている子は対象になります。

それと、強い特性があることで不登校傾向になっていて、弾力的な教育課程の下で学ぶことが良いと思われる子どもたちもその対象になります。

ただ、ある程度不登校傾向が見られなければ、学びの多様化学校としては対象外ということに、手引きの中ではなっているわけですね。

でも、毎日既存校に通っているけれどもしんどい子が、オープンドアスクールに行きたい！と思えるような学校になれば、本当に理想的な学校だと思います。

そういうふうな学校を作って、既存の中学校がそれに近づいていってくればいいなと思いますし、オープンドアスクールが必要なくなるということが一番いいわけなんですよ。

ぜひ、この軽井沢町全体でそれを目指して行ってほしいと思います。

【荒井座長】

はい。ありがとうございます。

私、気が付きましたので、【F委員】にご発言いただきたいと思います。

【F委員】、聞こえますでしょうか。

お願いいたします。

【F委員】

こちらの声聞こえてますでしょうか。

すいません。オンライン下なので、会場の皆さんにはちょっとご厄介になりますが、よろしくお願いいたします。

今の【E委員】からのお話について、大変共感するところと、難しさの両方を感じながら伺っていました。

以前、四国のとある町村で、教育支援センターを充実した形で作った事例がありました。

そこでは、今の学びの多様化学校やオープンドアスクール（をつくる際）のような議論をみんなでやって、探究的なプログラムとか、学校とは違うルールや文化で子どもたちを受け入れて、基本的には苦勞している子や学校現場で苦しんでいる子たちを対象にするというところからスタートしました。

しかし、【E委員】がおっしゃっていたように、それだったらそっちに行きたいというご家庭がそちらを選ぶようになり、村を二分するくらい議会でも問題になり、平時の小学校で特に学級の中でリーダーシップを取っているような子たちもそちらに行くというようなことが起こりました。

これをどう捉えればいいのかという議論になり、結果的にその教育支援センターは一旦閉じることになったというケースがありました。

そんな中で、今回のオープンドアスクールの対象をどうするのかというところで、確かに【E委員】がおっしゃるとおり、そっちの方が良い、そっちに行きたいという積極的な選択をする子が、確かに出てくるかも知れないですし、理想的な姿として起きるんじゃないかと思えます。

ですが、今回各学年 10 人、全体で 30 人というキャパシティが決まっている以上、私としてはやはり、今苦しんでいる子たちが対象になるという優先順位をはっきりしておいた方がいいのではないかなという風に思っています。

きっと今、非常にメディアからの注目がある会議で発信をされているので、軽井沢町の小学校・中学校の子たちやご家庭でも期待が高まっているんじゃないかと思うと、やはり各学年 10 人、全校で 30 人という人数は、すぐに埋まってしまうのではないかなと思います。

どうしても、積極的に選ぶ選択をする人たちはお子さんの情報感度が高かったり、困難さがあるというよりは本当にそこを選びたいという、インターナショナルスクールを選ぶような感覚で選ぶようなパターン・選択肢が起きるのではないかと思うと、今回は完全に公教育とか公立教育の範囲の中で、通える範囲に優先順位をつけるという意味では、私は【E委員】に共感しつつも、今回はやっぱり、不登校で苦しんでいる子を優先としてはっきりさせることが重要なかなと思いました。

2つ目で、夜間中学についてなんですけど、対象者が学齢期を過ぎた方と明確に書いてありますし、軽井沢町以外からも協定を結んだところから来る方を対象に含めるということが書いてあります。

私も不登校の子どもたちを見てきたんですけど、夕方以降とか夜の時間なら学校に行けるといいう子がやっぱりいて、そういう子たちにとっては、学齢期の子たちの夜間中学利用という

ころも、文部科学省がサジェスチョンし、実証しているスペースもあるので、学びの多様化学校に在籍しながらも、夕方行くという子たちは夜間中学に参加するというようなキャパシティを持っておくということも大事かなと思いますし、やはり基礎自治体の予算の中でどう進めていくかということを見ると、まずは学びの多様化学校も夜間中学も含めて、苦しんでいる軽井沢町の子たちが優先で、その次のステップとして協定自治体の子たちの受け入れという方がいいのかなと思いました。

ちょっと聞き切れていないので、論点がずれていたら申し訳ないんですけど、私からは以上です。

**【荒井座長】**

はい、ありがとうございました。  
非常に重要な論点かなと思っています。  
ありがとうございます。

では、**【G委員】**、お願いします。

**【G委員】**

はい、お願いします。  
入学要件、どうなると入学できるのかというところで、今回の資料の 57 ページにあるようなものは、外向けというか、親に見せるための条件が明記されているのかなと思います。

皆さんおっしゃるように、学びの多様化学校にむしろ入りたいというふうな子どもたちが出てきたときに、おそらく中学校もどんどん改革が進んでいるようなんですけども、ただ、やはり要件は外部に対しても内部の中でも明確にしておいた方がいいだろうなというふうに思います。

中学生ぐらいになると、保護者は学びの多様化学校に行かせたいと思うけれども、子どもはやはりそのまま欠席が続いてもいいから中学校の方に在籍をしたいというふうなことも出てくる可能性は十分あるのかなと思います。

ですので、そういうふうに保護者と子どもの気持ちがあ揃っているのかということと、一方で、子どもが行きたいと言っているのに保護者が納得しないということもあって、これは子どものことを尊重してあげられるといいなと思うんですけども、そういった部分はまとめて整理しておく必要があるのかなと思います。

加えて、欠席日数が 30 日ギリギリの子と、60 日の子がいたときに、60 日の子が優先されるというふうな単純なルールでいいのか、それとももう少し別なルールを決めておくとかということも必要なんじゃないかと思います。

そうしないと中学校に上がるときに、「学びの多様化学校の方に行きたいので 2 か月は丸々休みます。」みたいな、積極的にここ（学びの多様化学校）に入るためにいろんな方向を取る人が出てくることも考えられるのかなと思いますので、声かけのところはこれからしっかりやっていってほしいなと思います。

以上です。

【荒井座長】

はい。

ありがとうございました。

今、【G委員】が御指摘いただいたことは現実として全国でも起きていて、意図的に30日休んで入学を検討しているという事例も見聞きします。

57ページの辺りは、年度内に完成するものではなく、まだまだ詰めていける部分でもありますし、既に先行している他の自治体では、この部分をどの程度アウトリーチをし、どの程度既存の学校の中学校側が丁寧にやるのかを検討していることをご承知おきください。

ご理解いただいたということで、少し先に進めてまいりたいと思います。

● (4) 設置場所について

【荒井座長】

【資料4】になります。

(4) 設置場所について、前回軽井沢高校の北校舎とご提案いただき、そしてご参加いただいた方は実際現場も見ていただきました。改めて事務局の方から確認の意味を含めて説明をお願いいたします。

【宮本教育長】

はい。

それでは、43 ページをご覧ください。

ここは、【資料4】の1枚資料になります。

設置場所は今荒井座長からお話ありましたように、軽井沢高校の北校舎としたいということで、前回の会議の後に、委員の皆様に見学していただきました。

資料の3 校舎見学について、(4) 委員の皆様から担当者が聞き取ったご意見と書いてありますが、これは担当者が、見学のときに委員の皆様がつぶやいていた意見を拾ったものですので、公式というわけではないんですけども、こんなご意見があったということが書いてあります。

例えば、220 教室という2階の一番大きい部屋があり、廊下も教室も大きいところなんですけれども、食べることのできるようなキッチンスペースがあればいいという意見でありました。

また、123 教室という部屋、校舎案内図でいう右下の教室については、絨毯があるのがいいという話がありました。

あるいは、その隣、1階の1番東側にあります123Sという教室ですけれども、生徒がふらっと入ってこられるようなスペースとなればいなんて話をしたりしました。

こういった、見学いただいた時のつぶやきを書かせていただきました。

以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございます。

では、【資料4】について、ご意見いかがでしょうか。

【C委員】

既に、ここが設置場所であれば行きたくないというお子さんがいるということを知りました。

つまり、学校というものの自体を取り合わない人がいると。

提案なのですが、今後、内部の改装については色々提案が出てくると思いますが、アプローチということで、正門から校舎に行くまでに「あれ？これは学校ではないんじゃないか」と思えるような、例えば配色であったり、そういう仕掛けがあればいいなと思います。

予算があるので、どこまでできるかはわかりませんが、そういう仕掛けがないと抵抗感をや

わらげられないのではないかと思います。

ちょっとその辺のデザインとかを考えて欲しいなと思います。

**【荒井座長】**

はい。事務局からいかがでしょうか。

**【宮本教育長】**

はい、ありがとうございます。

内装もちろん考えますけれども、外の部分についても、設置前にできる限りのことはしたいと思っています。

また、設置後も先ほどあいさつでお話ししたように、子どもたちとか関係者の意見を聞きながら、設備に関しても変えていったり、あるいはこの施設に関しても変えていくという考え方がありますので、ご意見をいただきながら、通いやすい学校を目指していきたいと思います。

**【荒井座長】**

はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

● (5) スクールデザインについて

【荒井座長】

それでは続きまして、(5) スクールデザインについてということで、【資料5-1】から【資料5-7】まで、お願いいたします。

【宮本教育長】

それでは、44 ページをご覧ください。

【資料5-1】の、「1 日課」、「2 教育課程」、「3 学習空間デザイン」については、前回お出しした内容ですが、そこから再度お話しさせていただければと思います。

その3つについては、次の45 ページ以降に資料があり、前回お話しいただいた内容等もお示ししております。

例えば45 ページは、日課に関してのご意見やご質問です。

上の方の3つは、通う手段でスクールバスに関するものでしたが、現時点では考えておりません。

あるいは、上から4つ目の開錠時間について、高校の図書館で待機できるとよいのではないかという意見がありましたが、その右側に書いてありますように、【資料5-4】48 ページにて、軽井沢町の地図と施設をお示ししております。

軽井沢オープンドスクール以外に、例えば、①として軽井沢中学校の中にあります校内教育支援センターであるとか、あるいは教育支援センターが②ということで本日の会場のすぐ近くにあります。

また、③児童発達支援センターということで、少し距離はありますが西側に支援する施設があったり、場合によっては町立図書館とかがありまして、1番右の欄に利用可能時間の記載もしていますが、町の中の施設をいくつか利用していただくという方法もあるのではないかとということでお示ししてあります。

それでは45 ページに戻っていただいて、上から5つ目になります。

登校時間や下校時間が他の子どもたちと一緒にするのはないかと心配された意見について、その右側の欄にあるように、登校時間や下校時間は生徒が決められ、自由というのは変ですが、主体的に考えていってもらうので、そこはいろんな選択肢ができるのではないかと考えています。

そしてその下にあります、夜間中学における日本語学習についての質問で、仕事終了時から出席もできるのかという質問をいただきましたが、もちろん行くことができます。

ただ、日本語の習得のみを目的とした入学というものは想定しておりませんと書かせていただいています。

その下は、オンラインについてということで、オンラインも考えています。

また、マイプランタイム①②へ出席すれば3・4時間目は出席しなくてよいのかという質問に対しては、学校として時間割を設定したり、教育課程を決めたりしますが、子どもたちの実

態・学ぶ姿は、子どもたちが主体的に決めていくことを想定していると記載をしております。

1 番下は、オープンドアスクールにおける学びの多様化学校コースの生徒が早く帰宅してしまうのはもったいないということで、共通の時間（学びの多様化学校コースと夜間中学コース共通の時間）にはぜひ参加してもらいたいというご意見をいただいています。

もともとオープンドアスクールの理念がそういったものなので、推進していきたいと思いません。

そして次の 46 ページ、1 番上の時間帯について、職員の勤務時間を考えての時間割じゃないかという意見ですけれども、決してそういうことではなくて、オープンドアスクールの理念が、学びの多様化学校コースと夜間中学コースの皆さんが混じり合って学ぶことで多くの学びを生み出すというコンセプトのためにこの時間割としているということです。

下から 2 番目のところでは、休み時間がほとんどないがいかがなのかという話で、そこはもう一度事務局として考えておまして、47 ページを見ていただきたいのですが、前回お示した中身とちょっと変えています。

変えている中身は、ご意見いただいたことに関連し、学びの多様化学校コースの赤枠の上、16 時 55 分から 17 時 15 分の 3、4 時間目が始まる前に 20 分の休憩を入れたところです。

もともと休憩とか授業というのは子どもたちが選択していくので、日課のとおりそのまま行くわけではないんですが、夜間中学に来る方と同じように、その次の 3、4 時間目に向かうための共通に時間を取って、3、4 時間目に入っていき方がよいのではないかとということで、20 分の時間を設けましたので、赤字として提示しています。

それと下の方で赤字になっている部分を説明します。

左側の学びの多様化学校とかあるいは夜間中学というのは、文言を取り出したので、表記の仕方が変わったということで赤字にしています。

特に中身は大きく変わっていません。

ただ、1 点変わっているのは、上から 2 番目の学びの多様化学校コースの「マイプランタイム①②」についてです。

「マイプランタイム②」と書いた 14 時 45 分から 15 時 25 分までの時間を、週 2 日程度授業時間に組み込まないと、今回出す 770 時間を確保できないので、ここは前回の提示の仕方と変わっています。

実際には、子どもたちはその時間にきっちり授業することもありますし、色々な形で利用することもあります。申請の際にはこういった形を出していきたいと考えています。

以上の内容が前回と変わった点になります。

#### 【荒井座長】

はい。ありがとうございます。

【資料 5】関連について説明いただきました。

ご質問やご意見等いかがでしょうか。

【宮本教育長】

すみません。

まだ説明が途中ででしたので、説明させていただきます。

【荒井座長】

では、お願いいたします。

【宮本教育長】

【資料5】の関連が、少し先が長いですが、51 ページまでありますので、ここだけ説明いたします。

49 ページは、前回教育課程についていただいた質問・意見を書いています。

そして 50 ページが、教育課程の中身になりますけれども、ここも赤字で書いているものが前回と変わったところになります。

基本的に、内容はほぼ同じです。

ただ、表現の仕方とかを変えています。

具体的なものとしては、ネイチャータイムの中で、真ん中辺りに書いてあります「キャンプや農業体験、天体観測など」を入れたという部分や、あるいは1番下の表現タイムに「自分なりの表現方法」というようなことを入れたというあたりです。

中身については大きく変わっていません。

そして、51 ページですが、ここは学習空間デザインなんですけれども、これは前回と同じです。

ちょっと前に戻っていただいて、44 ページをお願いいたします。

ここまでが、前回の資料といただいたご意見です。

このあと、4～7の説明がありますがどうしますか。

【荒井座長】

一旦ここまでにしましょう。

前回までにご説明いただいたあるいは検討いただいた内容に、いただいたご意見を反映させて、少し表現を変えた部分が赤字になっていますが、その説明をいただきました。

この後、まだ説明する予定でしたが、一旦ここで区切って、何か今ご説明いただいた内容について質問等あればいただければと思います。

【G委員】

ありがとうございます。

空間的なところで、将来的なことなんですけれども、今考えている場所だと定員が学びの多様化学校コースと夜間中学コース合わせて合計 45 名とあります。

増やそうとするとどれぐらいまで増やせそうなイメージでしょうか。

【宮本教育長】

空間だけの問題ですと、もちろん先生の人数という部分もありますが、このスペースだと、限界は実際にやってみないとわかりませんが、今のところはこのぐらいの人数（今の定員）が限界じゃないかというふうに考えています。

【荒井座長】

ありがとうございました。  
他にはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。  
では、後半部分のご説明をお願いいたします。

【宮本教育長】

はい。それでは44ページをご覧くださいと思います。  
項目4、5、6、7は今回、初出しとなるところです。

先ほどちょっとお話ありましたけども、学校規模に関しては、学びの多様化学校コースが各学年1学級として、各学級の定員10名程度、全体では30人程度を想定しています。  
夜間中学コースは、全体で15人程度としていきたいと考えております。

そして、転入学の時期ですけれども、1年、2年、3年ともに、基本的には4月と10月、これは学びの多様化学校コースも夜間中学コースも同じように考えています。

6 夜間中学コースの修業年限については、先ほどもちょっと出てきましたけれども、原則最大6年間というふうに今ところ考えております。

それと、7 校名ですが、今までの資料は全て今回の資料も含め軽井沢オープンダスクール（仮称）としてきましたが、今後軽井沢オープンダスクールということで（仮称）を取っていきたいと考えています。

学校名に関しては、これも子どもたちの意見とか教員の意見を聞きながら、愛称等の必要があれば考えていければと思います。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。  
それでは【資料5】全体を通してご意見等あればと思います。

【E委員】

1学級は定員10名でいけそうですか。【教頭先生】。

【荒井座長】

それはニーズに対してということですか。

### 【E委員】

いや。資料にオープンドアスクールは各学年1学級設置で、1つの学級の定員は10人と書いてありますよね。

1年、2年、3年それぞれ10人程度しか受け入れないということだが、それで中学校に現在行っていない子どもたちは保障できますか。

### 【荒井座長】

皆さんで共有しておきたいのは、現状の不登校のお子さんに対するオルタナティブはこれしかないという話では全くなくて、まさに今48ページ【資料5-4】で他の教育支援施設の場所の存在がありましたけれども、1つのニーズに対して1つだけ当て込むのではなく、町全体としてケアしていくということです。

座長として事務局へお願いしたいことは、軽井沢町としての不登校支援の全体像を把握できるようなものを作成いただき、皆さんにご理解いただく必要があると感じました。

まずいったん、支援体制について共有いただければと思います。

その上で、【A委員】よりお願いします。

### 【A委員】

今、荒井座長におっしゃっていただいたことが回答になるかと思いますが、中学校としては校内教育支援センターもありますし、保健室登校もありますし、学年室という職員が集まる会議部屋もあって、そこで授業を受けている子もいます。

また、学校外にある教育支援センターでのサポートもあって、それをどううまく子どもたちに合うように、また中身を充実させたりしていくかということを考えています。

先ほど来、中学校での教育についてご意見をいただいておりますが、学びの多様化学校での学びというのは確実に、我々軽井沢中学校にも影響を与えてくると、私は思っています。

そして、先生たちが影響を受けて、指導法といいますか、学び方を変えていったり、工夫していくという変化が出てくればいいなど、期待値ではありますが、相乗効果で、不登校や教室に入りづらいという子が少しでも減っていけばと期待しています。

結局、そのところはしっかりと、公教育である小・中学校が学びをリニューアルしていったり更新していきたいというのが必須の上で、私は、今の状態でいけるのではないかというふうに思っております。

ただ、これは一個人の感想です。

### 【E委員】

ありがとうございます。

1番目の前の子どもたちをよく分かっている方の言葉なので、そこはとてもありがたく受け止めます。

ただ、軽井沢町だけではなく、全国35万人の子どもが学校に行っていないという今の現実があって、どこも不登校ありきで不登校支援をしているわけなんです。

その結果、子どもたちの中には、学校に行っていない自分が悪いと思わされてしまっている子どももたくさんいるんです。

今【A委員】がおっしゃったように、学校に無理して来なくていい、保健室もある、メタバースもある、カフェもあると言っていたいたり、無理してみんなのところへ行かなくていい、ここでもいいし、ここでもいいし、家からオンラインでもいいしと子どもに言っていたいていると思うんです。

それは、先生たちが子どものためにと考えてやられている声掛けだと思うんですが、子どもはその対応をどう考えているかという、学校の先生が自分のために言ってくれていると思う一方で、自分が学校にとって必要じゃない、必要な人間じゃないと、多くの子どもたちは今受け取っています。

不登校支援というところに重点を置くと、不登校ありきでの対策だと思うんです。

でも、例えば私が【A委員】に、「学校って無理して行くところですか。」と聞いたら、どう答えますか。

【A委員】

すいません。無理して行く場ではないとは思っています。

ただ、学びたい子たちが、様々な学びを続けていくことは大事だと思っています。

【E委員】

その難しいことちょっと横に置いておいて、子どもが質問したとしたらどう答えるか考えていただきたいんです。

学校は無理して行くところで、無理しないで学校に行けないという子が、今不登校と言われているわけです。

本来、軽井沢町にある3小1中は、地域の宝が行く学校で、パブリックの学校だから、無理して行く場所ではないと思うんです。

ここは、大人全員が合意しなければいけないところだと思うんです。

「無理しないから、努力しないから、この子は学校へ来られないし、この子が頑張ればいい」みたいなことを、先生の中の1人でもそういった感覚でいたら、その空気は必ず子どもに伝わります。来ていない子どもではなく、来ている子どもに伝わります。

すると、今来ている子の中に無理して来ている子がいたときに、無理して来ない子はずるいという感覚になってしまう。

こういった関係性があると、どれだけ学校へ行こうとしても、学校へ行くことができません。子どもは。

そう考えたときに、無理しないで行くのが学校で、まずは全ての子どもが無理しないで行ける学校にするのが大事だと思うし、軽井沢中学校を全ての子どもが無理しないで来られる学校

にするためには何を捨てたらよくて、何を大事にすればいいのかみたいな、日々の雑談を大人がしていなければいけないのではないかと思います。

不登校ありきの支援ではなくて、不登校を生まない地域の学校のあり方をもう一度子どもの声から問い直していただきたいです。

どれだけマットレスがあっても、どんなクッションがあっても、子どもはいけないと思うんです。

じゃあ何が大切なのかというと、「人が作る環境」だと思うんです。

だから、もう分かっていたいただいているとは思いますが、そのあたりを今一度大事にさせていただきたいと思います。

#### 【A委員】

すいません。

いただいたご意見に対する感想です。

今、公教育はどうすれば子どもたちにとって魅力のある学校になるかというところを軽井沢町の小中で考え、取り組んでいます。

軽井沢オープンドスクール（仮称）設置準備会議で様々なご意見をいただいた中で、そのことに目を向けやすくなっていますし、我々も向けているところです。

いかに魅力ある学校にしていくかというところで、先生たちも毎日悪戦苦闘しています。

ぜひ、魅力ある学校づくりを我々もしていきたいということを、改めてここで話しさせていただきます。

#### 【E委員】

ごめんなさい。

私ばかりが話していますが、喋っても大丈夫ですか。

#### 【荒井座長】

お願いします。

#### 【E委員】

魅力あるとは、先生たちが決められることでしょうか。

#### 【A委員】

それはもちろん、子どもたちが魅力あるというところで、子どもの声を聞いてかなければダメかなと思っています。

#### 【E委員】

魅力あるという言葉は、美しい言葉だと思います。

誰も否定しないんです。

魅力があったら、みんな学校に来ます。

でも、魅力あると言う前に、みんなが無理しないで来られて、息ができる学校にしてほしいと思います。

息ができたら、子どもは学校に来るんです。

息ができないから、子どもは学校に行かない。

じゃあどうしたら息ができるか、空気はいっぱいあるのに、息が吸えないのはなぜかと子どもに聞いたら、息が吐けないからだといいました。

子どもが弱音を吐いたり、嫌だと言えたり、みんなで笑ったり、いっぱい喋ったりすることが息を吐くということなんだと思います。

これができるのが、無理しないで行ける学校なんじゃないでしょうか。

魅力あるという言葉は本当に美しいし、もう蔓延しているけれど、その言葉で終わってはいけないんじゃないかと思っています。

#### 【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

#### 【H委員】

1つ伺いたいことがございまして、【資料5-4】についてです。

公共施設における町内の生徒の居場所についてということでお示しいただいていますが、これは学びの多様化学校も使うことができるし、既存の学校へ通う生徒も使える公共施設という理解でよろしいでしょうか。

#### 【宮本教育長】

資料45 ページ、【資料5-4】でお示ししている情報は、軽井沢オープンドアスクールの日課が朝からではないということで、軽井沢オープンドアスクールが開錠する前に学校へ行きたい生徒の対応はどうかというご質問・ご意見をいただきましたので、出させていたいただいています。

要は、1つの施設ですべて受け入れることを想定しているのではなく、ここに記載している施設もあって、軽井沢オープンドアスクールが開錠する10時30分より前にはこういった施設を利用していただくことができるということでお示しました。

#### 【D委員】

【資料5-1】について、いいでしょうか。

転入学時期について、学びの多様化学校も夜間中学も4月および10月ということで記載があります。

私の知っているところで、不登校を経験した人が夜間中学に通っています。

当然、学びの多様化学校の方にも不登校の子が行くことになると思いますが、タイミングと

というのが非常に大事になるんです。

だから、「今」というタイミングでその波に乗れると、順調に行くことができるようになるということもあります。

ですので、できればこの時期というのを4月と10月に限定せず、もう少しフレキシブルに対応できないかなと思います。

そのタイミングを逃したときに、「やっぱりもう行けない。」ということになってしまうこともあるので、そうならないように工夫していただきたいなと思います。

それと、体験入学があると思うんですけれども、体験入学を何日にするかということもなかなか難しいところで、子ども、または保護者、特に子どもが納得できる体験入学ができればいいなと思います。

三豊市の高瀬中学校は、子どもや保護者が納得するまでやっています。入学時期も本人が納得した時点で転入学ということになっています。なので、その辺のタイミングを大事にしてあげてほしいなと思います。

あと、夜間中学コースの修学年限について、原則最大6年という、この「原則」というのも、フレキシブルに考えていただきたいと思います。

何年かかって中学校の内容の教育課程を修了することができるかというのはその人によって全く違ってきます。

1年で高校進学したいという人もいますし、6年、7年かかる方もいるかもしれません。

だから、その人によって学びのスピードというのは違いますから、その辺はフレキシブルに考えていただきたいと思います。

原則というのは、校長の判断で変更できて、もう少しこの人は学びの時間を長くとった方がいいなとか、6年経ったけど卒業するにはもう1年頑張りたいというような希望があれば、(修業年限を)伸ばすことが可能ということになればと思います。

生徒を主体に考えていただけるような学校であってほしいなという願いです。

#### 【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

入学時期と体験入学、そして就学年限について、いかがでしょうか。

#### 【宮本教育長】

はい。

入学の時期ですけれども、学びの多様化学校の中には、そういう随時やっているところもあります。

この4月および10月とのは、年に2回ということでもかなり間口を広げていると、事務局の方では考えています。

先生たちがどう捉えるかという側面もありますので、またこれから検討していければと思い

ます。

まだ、これで決定ではないので、そこを改めて考えていきたいと思います。

あと、体験入学で何をするかというのは、今お示しできません。

(学校が) できる前に体験入学というのはなかなか難しいので、(学校が) できた後に、体験入学の中で納得するまでという部分をどうするかというのを考えていきたいと思います。

ただ、本町のオープンドアスクールというのは、軽井沢中学生から来ることを想定しているので、その部分ではかなり連携が取れると思います。

ですので、その部分に関しては、いくつかの市や多くの中学校、小学校から転入学してくる学びの多様化学校とは若干違う側面があるんじゃないかと考えています。

それと修業年限ですが、原則をつけているのは、基本的にフレキシブルに対応するということを想定しているためです。

6年と設定したのは、ある程度定員を設ける以上その定員を空けなければいけないという側面があるので、あんまり長くしてもということを考え、原則6年というふうに、現在はしているということでもあります。

**【荒井座長】**

はい、ありがとうございました。

**【D委員】**の1つのご意見ということで、検討材料としていただきたいと思います。

● (6) 学校案内について

【荒井座長】

一応、【資料5】に関しては、内容を見ていただいたということで、【資料6】に進みたいと思います。

【資料6】については、3月まで完成させたいという話ではないですけれども、私の方で、年度内の会議があと2回しかないので、出せる資料はすべて出してほしいということでお願いしました。

今後、記述やデザイン、内容も含めてリニューアルされる可能性はありますけれども、事務局から説明ください。

【宮本教育長】

それでは、学校案内の案ということで、52ページをご覧ください。

52ページから6ページ分ということで、今のところ6ページを学校案内として作っていくというふうに考えています。

1枚目の52ページは、一応表紙ということで、(校名が) オープンドアスクールですので、向こうに新しい世界があるというような形で作成しています。

デザインは、これから実際に業者とか、デザイン会社を考えていきたいと思っていますので、今は私達素人が考えたデザインというふうに見ていただければと思います。

次の53ページが、オープンドアスクールがどんな学校なのかということを中心に説明をしたものです。

上に学びの多様化学校コースと夜間中学コースがあることを示し、そして共通部分の説明、その下に2つのコースの説明があります。

一応、施設はこんな感じというイメージを乗せています。

54ページは、オープンドアスクールの日課を書いたんですが、ちょっと工夫したのが、1番下です。

一人ひとりに合った学び方や過ごし方ができますということで、時間割だけだと、「この時間に行かなきゃなのか」とか「この時間は自由じゃないんだ」というふうにどうしても考えがちなので、極端な例を記載しています。

例えばAさんは、学びの多様化学校コースで、10時30分の開校と共に学校に行って、自分の好きな植物の観察をしたり、先生とちょっとお話しして、日課に記載のある1時間目が始まる前に帰ると書いています。

あるいはBさんは、体調が整う午後からということで、起立性調節障害という人もいますので、午後から出て行って、14時45分から授業準備をし、体調によってはオンラインで参加して、18時には帰りますという例を書いています。

夜間中学の方は、仕事が終わった後、3時間目からは出られないけど、4時間目から出て、終わった後には先生に質問しながら授業の復習をして帰るという、ちょっと極端な例を書いています。

こういう例だってありえますということがイメージできるように、入れました。

次の 55 ページは、学び（教育課程）ということで記載しています。

特に既存の中学校と違うのは、要は 770 時間というようになり（授業時数を）削減しており、その削減分を何によって補うのかというのを文部科学省に出さなければいけませんので、その部分の説明として、今までの普通の中学校にはない科目・授業ということで、「とことんクエストタイム」とか「ヒューマンタイム」、「ネイチャータイム」、「表現タイム」があり、それぞれがどんな内容なのかということを書いています。

56 ページは、簡単な Q&A ということで、軽井沢オープンドアスクールについて、よくありそうなものを示しております。

57 ページは、先ほどちょっと言いましたけれども、こんな方の入学をお待ちしていますというものを、2つのコースに分けて記載しております。

最後のところは、入学・転入学までの流れということで、開校のためのものを記載しています。開校した後の 2 年目のパンフレットは、若干変わっていると認識していただきたいと思います。

ただ、中身はまだまだこれから詰めなければいけないですので、ご指摘を早い段階でいただき、来年度の 4 月 5 月頃までに作成していきたいと思っております。

以上です。

#### 【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

では、現時点でのものではありませんけれども、いかがでしょうか。

#### 【C 委員】

Q&A のところで意見があります。

先ほど、実践報告の中でも受験の話がありましたが、軽井沢オープンドアスクールに入ったときに、高校受験で不利にならないかというところが、本人も保護者の方も気になるころだと思います。

「Q 6 の成績はどのようにつけますか」、「Q 9 の卒業後の進路は？」というところに絡めて、不利になりませんということを一言入れていただければ安心されるかなと思います。

これは実績が出てくれば、実績を見て安心されるんだと思いますが、初めてなのでわからない方のために一言添えていただけたらなと思いました。

#### 【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

私も気になった点でした。

ちょっと【C 委員】とは違うアプローチかもしれませんが、53 ページの、吹き出しのところに「みんなと同じように成績もつけてほしい」という気持ちがあります。

56 ページにも、「Q 6：成績はどのようにつけますか」とか「Q 9：卒業後の進路は？」ということがありますが、ここは今まさに、国で議論しているところでもあります。

「みんなと同じよう“な”成績をつけてほしい」ということを、「同じよう“に”」というふうに理解する方もいますし、ここの書きぶりは誤解のないようにと思っています。

また、高校入試を考えた場合など、どのように不登校のお子さん、あるいはオープンドアスクールのお子さんの成績評価をするのかというのは、まだまだ議論をしないといけない部分だと感じています。

そのあたりも含めて、事務局の方からいかがでしょうか？

#### 【宮本教育長】

今の、不利になりませんというようにするのは、ご意見いただきながら、書き加えることがあれば加えていきます。

それと、ここに関しては言い方を工夫しまして、成績というような言い方をしています。評価とかの言葉は解釈が人によって違う部分があるので、書かないようにしていて、気を付けて記載しています。

#### 【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

今まさに、評価というものの中身について、評価、成績、評定、内申書など全部概念が違うものですが、受け手によっては同じように受け止められる部分もありますので、注意していただきたいと思っています。

あと、「Q 8：どんな費用がかかりますか？」についても、また要相談部分かと思しますので、書きぶりに気を付けていただければいいのかなと思っています。

他の委員の皆さん、いかがでしょうか。

はい。では【I 委員】、お願いいたします。

#### 【I 委員】

こちらの資料については、できれば動画とかあったらすごくわかりやすいなと思っているので、動画で解説しているようなものがあるといいのかなと思いました。

基本的に子どもは長い動画を見ないと思い、ショート動画とかが流行っているの、短い動画でぱっとわかるような、何かそういうふうにするより伝わるかなと思いました。

あともう1つ聞きたいのは、オンラインをどのように活用することを想定されているのかということのを伺いたくて、オンラインは勉強を補足するというような、学習に特化したものもありますが、居場所作りの使い方もあると思うので、どういう風な使い方を想定しているのか

ということを伺いたいなと思います。

オンラインは、やはり学校の先生に丸投げになることが多くて、学校の先生がいきなり学びの多様化学校に新しく赴任した中でオンラインを丸投げされたら多分パンクしてしまうと思うので、もしやるのであれば早め早めに枠組み作ってしまったたりですとか、すぐに教育委員会がサポートできるという形を作っていくことが重要かなと思うので、どういう想定があるのかというところを聞きたいと思います。

【荒井座長】

はい。

いかがでしょうか。

【宮本教育長】

今、動画に関しては、確かにその通りだなと、話を伺っていて、QRコードをつけたりして、動画を作りたいなと思いました。

それと、オンラインなんですけれども、授業の中身に関わるので、そこまでは議論ができていないのが実態です。

ただ、軽井沢町の場合には、全ての4小中学校にICT支援員がいますので小学校中学校4校と教育委員会と委託業者とかで、年5回程度ICT教育部会というものを開催しています。

そこへ私も参加していますが、管理職も担当者も参加する会議を何回も開いていて、ICTに関する部分の議論をしていますので、その中においてもオンラインというものをこの新しい学校でどう使うかについて業者と話しながら進めていこうと思っているところです。

以上です。

【荒井座長】

ありがとうございました。

ぜひ、【I委員】にもご協力いただいて、そのような動画を作っていただきたいと思います。

他にはいかがでしょうか。

はい、ではお願いします。

【J委員】

ここには、不登校の生徒が行くと思うんですが、今まで学校に行っていないため、どんな先生がいるか分からない状況、先行きが分からない状態だと不安になってしまうと思うので、できれば先生の写真だったりとか、どんな先生がいるのかというのを載せていただけたら、子どもたちは安心できるかなと思いました。

【荒井座長】

はい。では、事務局からお答えください。

**【宮本教育長】**

その通りだと思います。

学校の雰囲気はどういう感じかなど、実際に運営していく中でわかってきた際に、先生の顔写真とかを載せられれば良いと思います。

ただ、開校1年目は、パンフレットの中には載せられないと思います。

人事異動というのはすぐにはできないので、事前にこういう先生がいますということ載せることはできないと思いますので、2年目以降にはパンフレットの作り方について考えていきたいと思っています。

**【荒井座長】**

はい。

ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

ではオンラインの、【F委員】お願いいたします。

**【F委員】**

ご説明があったかもしれないので、被っていたら申し訳ありません。

このQ&Aの中の、教育課程について「Q5：所属学年で扱わない学習内容にも対応できますか？」ということで、さかのぼりとか、学年の学習より進めるというようなことについても表記がありました。

今、文部科学省の方でやっている次期学習指導要領の検討の中で、校内外の教育支援センターにおいて「特別の教育課程」を取り入れることが検討されています。

しばらく学校へ行っていなかった子たちで、教育支援センターにて学んでいる子たちが、もう一度その子のレベルの学習をすることを教育課程として認めようということで、どのように実装していくのかという検討議論があり、明日もその検討委員会があります。

そういった形で、しばらく学校に行っていない子たちや、もしくは先に進んだ方が本当は幸せだろうという子の学びというのをどの程度認めるのかが気になっています。

基本は学年相応の学びをベースにしながらも、「マイプランタイム」という自主学習の時間にのみそういった学びを認めるのか、それとも、ここでの学びがそれぞれの学びの段階というのを基本にして学ぶのか。

その全体のデザインでいうと、どっちになりますでしょうか

**【荒井座長】**

はい、いかがでしょうか。

**【宮本教育長】**

基本的には、公教育の中における町立中学校を作るという前提でいますので、学校としては教育課程をきちんと作り、学校として授業をどうするかということをしかりと作るというの

がまず一つあります。

ただし、その中において、子どもたちがどういう学びをするのかというのはまた別の問題であると考えています。

子どもの実態と、そしてそこにいる先生ということで、実際には先生方が担っていただく部分も多いですので、先生方だけではありませんが、そういった中において、どういう方法がその子にとってベストなのかということをしかりと認識していただきながら、子どもたちの学びを進めていくということです。

要は、個々の子どもたちが、共通の部分もあるけれども、それぞれの子どもの学びという部分を重視していくというのがコンセプトですので、そういうふうにしていこうと考えています。

【荒井座長】

はい。

【F委員】いかがでしょうか。

【F委員】

完全に個々に合わせるのはなかなか難しいということも大前提なので、そこは難しいかなと思っています。

また、共通の部分があるからこそ、学校という場でのみんなの関わり合いが生まれるので、そこは大事だと思っています。

ただ、特定の教科、特に戻り学習のしやすいものについては、特別な教育課程の考え方をここでも取り入れて、まさに村1個を作りながらということに実態としてはなるのかなと思うんですけどやっていたらと思います。

その子が中学3年生でも、小学校3年生の学びを1年間やれば成績がつく部分として認めていくというような学びを、教育支援センターで実行するということが（文部科学省では）検討されていますが、ぜひここ（学びの多様化学校）でもそういったことができる、それ自体が全国で新しいといいますか、あり方を提示することになるので、期待したいなというふうに拝見していました。

【荒井座長】

はい。

ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

● (7) 申請書類の様式について

【荒井座長】

では、残り時間もわずかになってきました。

(7) 申請書類について、事務局から説明をいただきたいと思います。

【宮本教育長】

はい。では 58 ページをご覧ください。

58 ページから 64 ページまでが、学びの多様化学校を設置するために文部科学大臣あてに出す書類のフォーマットになります。

全体で 7 ページありますけれども、これは中身が書いてありませんので、(中身を記載すると) 7 ページで終わるわけではありません。

具体的に言いますと、64 ページの「特別の教育課程の編成に関する資料」というところがかなりの分量になると考えていただければと思います。

最終的に何ページになるかはわかりませんが、現時点で大体 50 ページになっています。

実際には、その授業をどのように展開していくのかということ、資料を添付しながら記載するとそれだけで何十ページにもなりますので、この部分については、今準備を進めている段階であります。

それと、もう 1 つの資料が、65 ページから 73 ページにありますけれども、こちらは夜間中学を設置するための書類になります。

これは、あて先が長野県教育委員会ということになりますので、今いらっしゃる県の課長さん達にお出しすることとなります。

これは、ページ数そんなに増えず、今ある 9 ページのままになるかと思います。

以上です。

【荒井座長】

はい。

ありがとうございます。

今ご説明いただいたように、(授業時数の) 1,015 時間を 770 時間に削減した場合、どういうふうな質と量を担保するのかということが、国の関心事の 1 つであります。

この点についてはよろしいでしょうか。

● (8) その他

【荒井座長】

はい。

では、(8) その他ということで、事務局の方から何かございますでしょうか。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい。

事務局の方から説明いたします。

3点お願いいたします。

まず1点目です。

第7回、次回の設置準備会議につきまして、事前にお伝えしていましたが、当初の予定より1時間遅れまして、16時から18時ということをお願いいたします。

2点目です。

夜間中学の広報活動の途中経過について、説明させていただければと思います。

前回の会議を受けまして、現在アウトリーチということで色々なところに足を運んで、町のイベント等も活用しながら広報しているという実態でございます。

そうした中で、学齢期および学齢経過者の方とコンタクトを取れるところまで来ています。

個人情報等もあるため、まだ詳細を出せないというところを含みながら、今の状況について報告させていただきます。

対象の方と接触した経過も含めまして、次回の会議の中で、報告という形でお伝えできればと思っておりますので、今日の時点では、途中経過の報告ということでお伝えさせていただきます。

一方で、引き続きの広報活動については、これからも進めていくということでご理解いただければと思います。

お願いいたします。

3点目です。

昨年、9月22日に「『私たちの学校』づくりフォーラム」ということでフォーラムを実施いたしました。来年度につきましても改めまして、フォーラム2026を実施していきたいと考え、計画をしております。

内容については今後検討していきますけれども、本日お伝えしたいのは日程です。

7月12日(日曜日)の開催予定で進めさせていただければと思っております。

委員の皆様におかれましては、今後事務局よりまたメールの方をさせていただき、出欠の確認を取らせていただければと思っております。

以上3点になります。  
よろしく願いいたします。

【荒井座長】

はい。  
ご予約いただけたらと思います。

それでは、こちらで用意した（8）までが終了ということで、以上になります。  
ご協力いただいてありがとうございました。

事務局の方へお戻しさせていただきます。

● 5. その他

【岩井子ども教育課長】

荒井座長、委員の皆様、ありがとうございました。

5. その他については、先ほど事務局の金井から説明させていただきましたので、飛ばさせていただきます。

本日も、事務局から提示させていただきました多くの議題に関して、ご意見をいただきましてありがとうございました。

引き続き委員の皆様にはご協力頂きますようお願いいたします。

● 6. 閉 会

【岩井子ども教育課長】

以上をもちまして、第6回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議を終了いたします。皆様ありがとうございました。